

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

#### ①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

##### 《人社系》

##### ●東北大学環境科学研究科環境科学専攻

##### 「環境フロンティア国際プログラム」の事例

##### (具体的に何を実施したのか)

本プログラムでは、「海外エコプラクティス」なる科目を設けたが、これはアジアを中心とした海外の研究・教育機関に修士は1カ月以内、博士は3カ月以内滞在させ、その地域で起きている環境問題について自身の目で観察し、その解決方法について考察させるものである。海外派遣の前に、派遣地域の環境問題について事前調査させ、これを公開発表させた。帰国後にも当該地域の環境問題の整理と解決法に関する考察を記載したレポートを提出させるとともに、公開発表を義務付けた。

##### (実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

学生を派遣する先の研究・教育機関と事前に詳細な打合せを行った。また、その機関から研究者等を本研究科に招へいして国際シンポジウムを開催し、本研究科との関係を強化した。これにより、安全かつスムーズな学生派遣が可能となった。すなわち、派遣先での宿舎、派遣中の視察、講義の受講など、種々のアクティビティーが可能となり、学生の自主調査のみではない準備された実習期間を提供することができた。

##### (どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

海外エコプラクティスの一連の過程を経た後には、学生の意識は大いに高まり、将来の実践に向けた最初の体験として定着させることができた。学生を派遣するために事前に実施した派遣先研究者による国際シンポジウムや派遣直前の打合せは、本研究科の教員と派遣先との間に信頼関係を築くことができ、その後の研究科の国際活動に資するところが大きかった。